

2016 国際シンポジウムの開催（タイ：チェンマイ大学）

報告者 イフパット理事 西村美彦

しばらく開催されなかった国際シンポジウムが6月9-10日にタイ国チェンマイ大学工学部とIFPaTとの共催でチェンマイのIBIS Styles Hotelにおいて開催された。シンポジウムのトピクスは「Climate Change Impacts on Agriculture workshop」と題して企画された。今回の国際シンポジウム開催に際してはチェンマイ大学客員教授でIFPaT会長の伊藤先生にお骨折りいただいた。9日のシンポジウム開始に当たってはチェンマイ大学工学部長のDr. Nat Vorayos先生とIFPaT会長伊藤信孝先生の挨拶をいただいた。本シンポジウムには約100人の先生と学生が参加した。

シンポジウムでは8課題の講演が行われた。メイン課題についてはキーノートとしてChiang Mai UniversityのProf. Attachai Jintrawet先生による「The Use of Climate Change Projections and Crop Models for Climate Change Impact Assessment: TRF's Experiences in Thailand and Southeast Asia」の講演があった。また、IFPaTからは櫻井ハイ理事の「Situation of Fam Mechanization in Tajikistan」発表と西村美彦理事の「Illustration of JICA Grass-Root Project for Rural Development」の発表が行われた。また、海外からのスピーカーとしてベトナムのHo Chi Minh City Nong Lam UniversityのDr. Nguyen Huy Bich先生が発表を行った。

第2日目はエクスカージョンとしてチェンマイの北約50kmにあるMeo Kom Pong Villageを訪問した。この村の周辺は開発の遅れた地域として位置付けられていたが、ロイヤルプロジェクトとしてコーヒー生産加工や小規模水力発電を取り入れて、さらに研修旅行、エコツーリズムを村が運営することで大きな注目を集めている村である。教員や学生たちとこの村をあることとでチェンマイの自然を満喫することができ、非常に良い企画であった。

今回のシンポジウム開催ではIFPaTからの参加は3人だけと非常に少ない人数であったことは惜まれる。この点今後シンポジウムのあり方を考え直す必要があるかもしれないと思われる。

チェンマイ大学工学部—IFPaT 共催 国際シンポジウム
“The Climate Change Impacts on Agricultural Workshop”



2016年国際シンポジウムの垂幕



講演者との記念撮影：
左から：櫻井、西村、Dean Nat Vorayos, Nguyen Huy Bich、伊藤

シンポジウム参加者の集合写真





エクスカーション：ローヤル
プロジェクトの農村産品村
の訪問



エクスカーション：
エコツーリズム村である Meo
Kom Pong Village の民泊レス
トランにて



セミナー終了後の会食で参加証明
書と写真の授与
左から：Dr. Viboon Changrue,
伊藤会長、x x x x、西村、櫻井